「いつか」のために

鹿児島市立紫原中学校　三年　原口（はらぐち）　純衣（きより）

「水は昔からたくさんの色んな生き物たちが生きるために飲んできた重要な資源なんだよ。」

と，小学校の遠足で行った浄水場で働いていた職員の方が言ったのを今でも覚えている。そして，小学校の先生が教えてくれた公害のことや，水がもたらした災害についてのことも覚えている。

「公害」これは一九六〇～一九七〇年代における高度経済成長期頃に経済の利益を追求した結果，環境を汚染し，人体にも悪影響を及ぼしたものだ。そして「水俣病」もその一つだ。人々が汚した水により，プランクトンが汚染され，そのプランクトンを食べた魚も汚染され，その魚を食べた人間がかかった中毒性の神経疾患だ。この水俣病で隣の県である熊本県では，約二〇〇〇人もの人々が亡くなったと教科書にかいてあった。公害によっ

て，たくさんの人々が傷つき，悲しい思いをした。それを先生から聞き，とてもつらくなった。

だからこそ人間は過去を受け入れ，水の美化に取り組んでいる。浄水場の設置，地域の方々によるごみの分別などだ。これらにより今，私たちは安全な水を飲むことができている。

しかし，水がもたらす災害は誰も止めることができない。「豪雨」「土石流」「洪水」いろんな災害があり，そのたびに悩まされてきた。そのため，ダムが設置されてきた。

そもそもダムは，洪水調節，水資源の確保発電，河川環境の保全などの目的で設置されており，これらのおかげで私たちは安心して過ごすことができている。でも，何もないところにだけダムを建てているというわけではない。そう父は教えてくれた。

「お父さんの知り合いにダムの建設で引っ越さないといけなくなった人がいてね，そうい

う人に会ったのは初めてだったから，びっくりしたよ。」

と父は言った。私も今まで，ダムは誰も住んでいない山に建てられていると思っていたので，とても衝撃的だった。

「それでその人どうなったの？」

と父に聞くと，父は，

「その人，引っ越さないといけなくって友人たちとも離れ離れになって，ダムの建設だから，住んでいた村も全部なくなって，とても悲しかったみたいだよ。」

と言った。私は想像した。大切な友達がみんな離れ離れになり，簡単に会えなくなる。そして自分がお世話になった故郷が全て消え，ダムになっている。私はそれを考えたとき，とても悲しくなった。

ダムは安全に，そして快適に過ごすためにも必要だ。でも，その背景にあるこれらの事を忘れてはいけないと思った。

そして父はこう言った。

「世界で水不足の国とか，公害で悩んで大変な人たちが減って，みんないつか幸せにくらせるといいな。」

水はいろんな形に変化することができる。飲む水や植物を育てるときの水，洗うときに使う水。だからその分私たちは，水をきれいなまま保たなければならない。たくさんの人々が守ってきた水を。過去をふまえ，今に生かし，未来へとつなぐ。水との関わり方は昔も今も同じなのだと思う。私たちは「いつか」のために今，水にできることを精一杯にしていかなければならない。

私は今日も，蛇口をきゅっと強く閉めた。